

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2012

課題番号：21240022

研究課題名（和文） ネットワーク環境における前近代日本史史料の翻刻・編纂フレームワークの確立

研究課題名（英文） Establishment of the framework for republication and compilation of historical source materials concerning pre-modern Japan in the network environment.

研究代表者

加藤 友康（KATO TOMOYASU）

明治大学・大学院・教授

研究者番号：00114439

研究成果の概要（和文）：

本研究では、編纂の最も基礎作業となる「翻刻」作業を、史料のデジタル画像を呼び出し、コンピュータ画面上で釈文を作成するシステムの開発により、中世文書・古記録を中心にデータの生成を行うとともに、系図・系譜がもつ氏・家系・人物属性などの諸情報を正規化して蓄積するツールを開発して、標準化された多様な歴史知識情報を翻刻した釈文に付加することを可能としたことで、今後の多様な活用が期待される。また、データ形式の標準化による人物メタ情報の蓄積をもとに、東京大学史料編纂所歴史情報処理システムにある人物情報の正規化を実践し、高度利用が可能となるコーパスの構築を進めた。

研究成果の概要（英文）：

In this study, regarding “republication” the most basic work of compilation, data of mainly medieval documents and diaries was created by development of a system which create paraphrases on the computer display by calling up digital images of historical materials, also adding of the standardized diversified historical knowledge information to republicated paraphrases was enabled by development of a tool for accumulating the normalized diversified information of family names, bloods and people’s properties contained in their ancestries or family trees. In these regards, various applications of this study are expected in the future.

Moreover, based on the accumulation of people’s meta-information by way of standardization of the data format, formulation of a corpus which implements normalization of and enables intensive use of the people’s information in the Historical Information Processing System of Historiographical Institute the University of Tokyo was advanced.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	12,500,000	3,750,000	16,250,000
2010年度	11,500,000	3,450,000	14,950,000
2011年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2012年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
総計	36,200,000	10,860,000	47,060,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学 図書館情報学・人文社会情報学

 キーワード：史料編纂 翻刻支援システム 歴史知識情報 歴史情報学 系図・系譜
 墨書土器 人物属性

1. 研究開始当初の背景

人文社会情報学の分野では、近年、歴史史料のオントロジー解析をベースとして、地域情報学、歴史知識学、さらには情報史料学などの構想が打ち出されている。大規模な共同研究を展開し、編纂原稿の電子化と出版物電算データのデータベースへのシームレスな格納や、多種・多量な史料画像の電算閲覧システム確立などの先進的な実績をもっている東京大学史料編纂所をベースに、前近代日本史史料の基礎的・根底的な研究スタイル、すなわち「編纂」を、研究者がネットワーク環境のもとで協同して遂行するための合理的方法を確立することをめざした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、前近代日本史史料の基礎的・根底的な研究スタイル、すなわち「編纂」を、研究者がネットワーク環境のもとで協同して遂行するための合理的方法を確立することにある。マニュスクリプトという形態で大量に残存している前近代日本史史料を研究資源として縦横に活用するためには、翻字および校訂、歴史知識情報（人名・地名等の注記）の付加、一定の主題・秩序に基づく配列・整形を施して史料集にまとめていく”翻刻・編纂”という営為が不可欠である。そのため、次の三つの分野の研究を進めることとした。

(1) 歴史史料解読のための翻刻支援システムの開発

東京大学史料編纂所附属前近代日本史情報国際センターは、史料画像上に翻刻テキストをダイレクトに書き起こすシステムを開発しており、また画像史料解析センターは電子崩し字字典（COE プロジェクトの成果による）の構築をすすめ、文字字形データの蓄積を図っている。近年急速に進みつつある史料原本のデジタル画像化を前提に、電算機上での翻字を支援するツールを開発し、その精度を上げることをめざし、文書画像解析システムを開発・活用し、語彙の共起性分析やフィルタリングなどテキスト解析技術を応用することで、難読文字について字形と文脈の双方から推定する環境を構築することを目的とした。

(2) 知識化・知識利用システムの構築による蓋然性推定の高度化

生成されたテキスト群を中核とする中間成果物を共有し、これまで編纂者・研究者が蓄積してきた校訂のノウハウや歴史知識情報の相互活用を図ることで、知識化・知識利用システムを構築し、史料群や書目、時代や地域を越えた歴史知識情報の参照・活用の実践を図ってゆくことを計画した。これによって、テキストクリティークを徹底し、同時に

蓄積された知識データをもとに歴史的蓋然性の推定を深化させていくことを目的とした。

(3) 史料画像デジタル化を前提としたネットワーク型編纂支援システムの開発

(1) によって作られたテキストを前提として、類聚・配列を行い人名注・地名注といった歴史情報を付加した上で個別の史料集を編んでゆく編纂過程を電算機上で処理し、さらにネットワークを介して共有できるシステム（編纂支援システム）の構築を進めることの総体を「翻刻・編纂支援フレームワーク」と名付け、それにより、「編纂」が歴史学と情報学とを真に結びつけ、歴史情報学のシステムの・理論的に確立に寄与する構図をめざした。

3. 研究の方法

前記の構想のもとで、具体的な研究及びシステム開発・データ生成の作業として、三つの分野で以下のものを行う。

(1) 歴史史料解読のための翻刻支援システムの開発

史料編纂所附属前近代日本史情報国際センターにおいて開発した史料翻刻用エディターに、文字推定機能を導入する研究を進めることにより、サーバ上のシステムをとって抜本的に改良を加える。文脈推定機能の開発においては、史料編纂所において蓄積してきた史料フルテキストを基礎として、テキスト解析技術の精度を高めてゆくため、編纂作業における実践をふまえ、特に人物・地名・説明など注記機能の強化・史料編纂所の各種DBとの連携を推進し、編纂過程において生成される情報をダイナミックに共用しうる機能を設計する。

この改良開発した翻刻支援システムにより、生成されるデータの汎用性を高めてゆくため、人物・地名・説明などの注記機能において、データベース構造に規定されないXMLの定義方法を確定し、一括抽出や正規化にむけた方法論をさぐる。

電子的に文字を読むための推定機能としては、フルテキストデータと連携した文脈依存による解析を進展させ、翻刻支援システムへの実装を図り、テキスト文脈に基づく候補文字参照機能の向上に努める。文字参照にあたっては、字形・字体データもあわせて活用できるように支援ツールを強化する。

さらに、研究代表者の異動先研究機関において新たに「墨書土器データベース」対象として、データベースのネットワーク公開と字形・字体の文字推定機能の研究を進めるため、明治大学古代学研究所でこれまで構築してきた「墨書土器データベース」に本研究で追加する「墨書土器データ」を総合してネット

ワーク公開するためのシステム開発を行ない、その成果を文字推定機能に援用することをめざす。

(2) 知識化・知識利用システムの構築による蓋然性推定の高度化

知識化・知識利用システムの構築にあたっては、官職履歴関係史料、死没年史料など史料編纂所内において様々な形態で蓄積されてきた知識情報の統合を進める。また、この知識化・知識利用システムの構築のため、これまでの人物情報を活用した系譜史料・官職履歴史料のデータ化を進める。代表的系譜史料であるが、史料体裁が複雑でデータ化が見送られていた系図・系譜に焦点を定め、氏・家系・人物属性などの諸情報を正規化して蓄積するツールを開発し、古代・中世の系譜史料『尊卑分脈』、近世の系譜史料『寛政重修諸家譜』を対象に、様々なメタデータをもったデジタルデータの生成を進めるとともに、各種補任類や説話集を対象に、人名・官職データの充実を図る。

(3) 史料画像デジタル化を前提としたネットワーク型編纂支援システムの開発

上記(1)(2)の翻刻支援システムと知識化・知識利用システムを構築しながら、史料画像一目的情報一翻刻テキスト一史料集内配列情報をメタデータによって連結し、編纂工程が当事者以外にも共有化されるネットワーク型編纂支援システムの設計を進める。性格の異なる史料集ごとの編纂工程に汎用性をもたせるため、史料編纂所データベース群がもつ史料画像データに関するメタ情報について、翻刻支援システムと同期できるよう調整を進めてゆく。

4. 研究成果

(1) 歴史史料解読のための翻刻支援システムの開発

編纂の最も基礎作業となる史料の読み起こし作業、すなわち「翻刻」作業をネットワーク上にて支援するシステムの開発を中心に進めた。史料デジタル画像を呼び出し、コンピュータ画面上で史料原態にあわせた釈文作成を可能とし、体裁注や説明注など様々な知識情報を付与する機能を設け、生成したデータをXML形式でサーバ上に保存しネットワークを介して共有する翻刻支援システムを構築した。このシステムを史料編纂所歴史情報処理システム(SHIPS)と連携する形で稼働させ、中世文書・記録を中心にデータの生成を行った。翻刻支援システムを運用するなかで、蓄積されたデータの解析を通じて、XMLタグの修正等を施すとともに、テキスト分脈に依存した文字推定機能の向上を図った。改良された翻刻支援システムのもとで翻刻テキストデータの生成に努め、デジタル画像からテキスト蓄積を実践した。また文脈による文字推定機能について、基盤となる文脈

データの拡張・N-グラム法の強化によってその正答率を著しく向上させた。あわせてSHIPS内の電子くずし字字典DBと連携し、推定された文字につき代表的字形画像の表示を可能とした。

さらに、出土文字史料の字形・字体から文字を類推するためのツール開発の前提として、明治大学において新たにサーバを導入し、明治大学古代学研究所が集成した「墨書土器データ」をサーバ上に移行して、これらの墨書土器データをネットワークを介して検索可能とするため、Webのブラウザによる検索システムの開発を行ない、古代学研究所がこれまで集積してきた墨書・刻書土器データと合せて、研究所ホームページ上(URL: http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html)から公開した。

(2) 知識化・知識利用システムの構築による蓋然性推定の高度化

翻刻した釈文に付加する歴史知識情報の生成・共有システムの開発とそれにもとづくデータの生成を中心に進めた。多様な歴史知識情報のうち、とくに史料体裁が複雑でデータ化が見送られていた系図・系譜に焦点を定め、氏・家系・人物属性などの諸情報を正規化して蓄積するツールを開発した。これによって時代や地域によって体裁の異なる系譜類を、標準化されたフォーマットを介して情報化することが可能となり、今後の多様な活用が期待されるところである。

歴史的人物の情報を収集・蓄積するため、知識化・知識情報利用システムを活用し、古代・中世の代表的系譜史料である『尊卑分脈』、近世系譜史料たる『寛政重修諸家譜』などを対象に、様々なメタデータをもったデジタルデータの生成を進めるとともに、『春宮坊官補任』などの各種補任類や『日本霊異記』『古事談』などの説話集を対象に、人名・官職データの収集を行なった。既存の官職履歴データや各種索引データとの連動をめざし、データ形式の標準化にむけて検討を進め、『尊卑分脈』『寛政重修諸家譜』を主たる対象とした人物メタ情報の蓄積をもとに、SHIPS内にある人物情報の正規化を実践し、高度利用が可能となるコーパスの構築を進めた。

(3) 史料画像デジタル化を前提としたネットワーク型編纂支援システムの開発

(1)・(2)において開発したシステムや生成した情報を、いかに連携させネットワーク編纂を実現するかについて、方法論的分析・研究を行った。史料集は、その対象とする時代や史料群によって多様な形式性を有している。かかる多様なスタイルから汎用的なモデルを求め、具体的な史料書目に応じた構造解析の検討を進めた。翻刻支援システムの機能

拡張によってネットワーク型編纂の実現を図るべく、SHIPS 内の目録系データベースとの連携・調整を進め、SHIPS データベースがもつ画像管理データ構造と、翻刻支援システムの構造を連携させるための API について構築にむけた検討を行った。そのため、SHIPS 内にある史料目録系 DB と画像ディレクトリ管理系 DB の協調を強化するとともに、両者間のメタ構造について解析を行い、この成果にもとづいて翻刻支援システムの史料・画像検索機能の強化に向け実践を重ねた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 96 件)

- ①井上聡、『電子くずし字字典データベース』の課題と将来構想、情報処理学会研究報告『人文科学とコンピュータ研究会報告』、査読無、9、2013、pp. 1-5
- ②及川亘、萩藩毛利家・寄組「柳沢文書」の天下普請関係史料、東京大学史料編纂所研究報告、査読無、2012-6、2013、pp. 55-83
- ③及川亘、史料翻刻土佐山内家宝物資料館所蔵『長帳(山内家御手許文書)』甲五・甲六、東京大学史料編纂所研究報告、査読無、2012-6、2013、pp. 109-228
- ④遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎、史料編纂所所蔵『大外記中原師廉記』、東京大学史料編纂所紀要、査読無、23、2013、pp. 212-232
- ⑤遠藤珠紀、足守木下家文書に残る三通の位記の再検討、日本歴史、査読有、778、2013、pp. 16-30
- ⑥金子拓・遠藤珠紀、國學院大學図書館所蔵『舜旧記』紙背文書、國學院大學校史・学術資産研究、査読無、5、2013、pp. 299-314
- ⑦松澤裕作、壬申地券と村請制、社会経済史学、査読有、78-4、2013、pp. 69-88
- ⑧保立道久、平安時代末期の地震と龍神信仰、歴史評論、査読有、750、2012、pp. 66-88
- ⑨久留島典子、中世女性の『長寿』と老い、日本歴史、査読有、776、2012、pp. 12-21
- ⑩末柄豊、『十三絃道の御文書』のゆくえ、日本音楽史研究、査読有、8、2012、pp. 1-11
- ⑪末柄豊、看聞日記、歴史と地理、査読無、657、2012、pp. 29-34
- ⑫末柄豊、慈尊院古聖教目録二種、勸修寺論輯、査読無、8、2012、pp. 5-35
- ⑬末柄豊、土佐一条家祇候の中御門家の系譜をめぐって、ぶい&ぶい、査読無、23、2012、pp. 1-11
- ⑭遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎、綱光公記 寛正三年暦記、東京大学史料編纂所紀要、査読無、22、2012、pp. 88-100

⑮金子拓・遠藤珠紀、『兼見卿記』自元亀元年至同四年記紙背文書、東京大学史料編纂所研究成果報告、査読無、2011-3、2012、pp. 106-133

⑯末代 誠仁・白井 啓一郎・井上聡・久留島典子、シームレスコンピューティングのための古文書字形検索技術、じんもんこん 2012 論文集、査読有、Vol. 2012-7、2012、pp. 85-92

⑰宇陀則彦・村田良二・山田太造・山本泰則、「転写資料記述のための概念モデルと特徴と課題」、国立歴史民俗博物館研究報告第 176 集『歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究』、査読有、Vol. 176、2012、pp. 239-266

⑱山田太造・近藤成一・野村朋弘、日本古文書ユニオンカタログ—古文書情報を網羅するための“古文書リンケージ”プラットフォーム—、研究報告人文科学とコンピュータ (CH)、査読無、Vol. 2012-CH-93、no. 1、2012、pp. 1-16.

⑲保立道久、地震・原発と歴史環境学—9 紀史研究の立場から、歴史学研究、査読有、884、2011、pp. 8-11

⑳保立道久、貞観津波と大地動乱の九世紀、季刊東北学、査読無、28、2011、pp. 74-94

㉑保立道久、歴史知識学の方法と知識ベース、査読無、人間文化研究情報資源共有化研究会報告集、2、2011、pp. 113-129

㉒山家浩樹、大覚寺所蔵『伝授目録 醍醐』、室町時代研究、査読無、3、2011、pp. 101-129

㉓山家浩樹、無外如大伝と千代野伝説の交流、アジア遊学、査読無、142、2011、pp. 232-244

㉔及川亘、元和九年将軍父子上洛関係記録記事抄、東京大学史料編纂所研究成果報告、査読無、2010-2、2011、pp. 24-87

㉕遠藤珠紀、穴山信君と策彦周良、日本歴史、査読有、754、2011、pp. 86-91

㉖遠藤珠紀、綱光公記、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、21、2011、pp. 88-101

㉗遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎、綱光公記 享徳三年暦記、東京大学史料編纂所紀要、査読無、21、2011、pp. 88-101

㉘山田太造・井上聡・遠藤珠紀・久留島典子、日本史史料読解支援のための候補文字検索、じんもんこん 2011 論文集、査読有、Vol. 2011、No. 8、2011、pp. 43-50

㉙山田太造・井上聡・遠藤珠紀・久留島典子、日本史史料における翻刻テキストの構造化支援手法、情報処理学会研究報告(人文科学とコンピュータ研究会報告) 2011-CH-91、査読無、Vol. 2011、No. 5、2011、pp. 1-8

㊀末柄豊、足利義植の源氏長者就任、日本歴史、査読有、748、2010、pp. 87-95

㊁遠藤珠紀、中世朝廷の運営構造と経済、歴

- 史学研究、査読有、872、2010、pp.61-71
- ②遠藤珠紀、『職原抄』の伝来について、阿部猛編『日本政治史の研究』日本史史料研究会、査読無、2010、pp.953-972
- ③遠藤珠紀・尾上陽介・宮崎肇、『頼資卿熊野詣記』『後鳥羽院修明門院熊野御幸記』『修明門院熊野御幸記』紙背文書の紹介、鎌倉遺文研究、査読無、26、2010、pp.95-110
- ④馬場基、寺院の建設、季刊考古学、査読無、112、2010、pp.34-37
- ⑤馬場基、平城京という「都市」の環境、歴史評論、査読無、728、2010、pp.46-61
- ⑥馬場基、古代木簡解読支援システムにおける字体検索の高性能化、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集、査読有、2010-15、2010、pp.27-32
- ⑦馬場基、Techniques of Image Processing for Decoding Mokkans、Proc. 2nd China-Japan-Korea Joint Workshop on Pattern Recognition、査読有、2010、pp.47-49
- ⑧馬場基、Non-linear Normalization of Damaged Characters for Search Refinement、Proc. 2nd China-Japan-Korea Joint Workshop on Pattern Recognition、査読有、2010、pp.185-188
- ⑨馬場基、Techniques to Enhance Images for Mokkan Interpretation、Proc. 12th International Conference on Frontiers in Handwriting Recognition、査読有、Vol.1、2010、pp.385-362
- ⑩末柄豊、東京大学教養学部所蔵『飛鳥井家国歌関係資料』、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、19、2009、pp.80-93
- ⑪山家浩樹、嵯峨南芳院とその文書、日本歴史、739、査読有、2009、pp.77-84
- ⑫遠藤珠紀、鎌倉時代の朝廷制度史研究、『歴史評論』、査読有、714、2009、pp.32-44
- ⑬遠藤珠紀、尊経閣文庫所蔵『外記日記(新抄)』について、『日本歴史』、査読有、731、2009、pp.88-96

〔学会発表〕(計 20 件)

- ①加藤友康、奈良・平安時代における文書の整理と保管―「東アジアの文書」論のための前提―、国際学術研究会「交響する古代Ⅲ」、2013年2月22日、明治大学
- ②加藤友康、出土文字史料からみた日本古代の情報伝達、高麗大学校・明治大学学術交流研究集会、2013年1月7日、高麗大学校(韓国)
- ③井上聡、荘園絵図調査の実践から、民衆史研究会大会、2012年12月15日、早稲田大学
- ④山田太造、An Attempt to Obtain a Similar Japanese Historical Material Using The Variable Order N-gram、PNC 2012 Annual Conference and Joint Meetings、2012年12

月7日、UC Berkeley CA, USA.

- ⑤井上聡、豊前京都平野の中世と水利・水運、第10回考古学と中世史シンポジウム、2012年7月8日、帝京大学山梨文化財研究所
- ⑥加藤友康、平安貴族と古記録、清華大学・明治大学学術交流会、2011年9月23日、清華大学(中国)
- ⑦加藤友康、平安時代の房総の受領と中央貴族、千葉歴史学会、2011年5月15日、千葉大学
- ⑧加藤友康、平安貴族の国際意識、第1回高麗大学校・明治大学 国際学術会議―韓日文化交流の諸相―、2011年3月29日、高麗大学校(韓国)
- ⑨保立道久、歴史知識学の方法と知識ベース―東京大学史料編纂所での経験から―、第5回 人間文化研究情報資源共有化研究会、2011年1月28日、国立民族学博物館
- ⑩山田太造、史学研究をいかに支援するか―歴史情報の生成・管理と利活用の支援方法―、アート・リサーチセンター連続講演会「デジタル・ヒューマニティーズのいま×人文学研究のいま」、2010年12月10日、立命館大学アート・リサーチセンター
- ⑪加藤友康、古記録と日記文学、国際学術研究会「交響する古代」、2010年11月6日、明治大学
- ⑫保立道久、日本史における系譜・系図史料―情報化の展望をふまえて、東亜細亜族譜史料の構造と活用方案研究の研究会、2010年7月10日、韓国学中央研究院(韓国)
- ⑬久留島典子、家財目録から見る日本中世の庶民生活、慶北大学校嶺南文化研究院創立10周年記念国際学術シンポジウム、2010年7月3日、慶北大学校(韓国)
- ⑭遠藤珠紀、中世朝廷の運営構造と経済、歴史学研究会、2010年5月23日、専修大学
- ⑮久留島典子、高等学校日本史教科書にみるジェンダー、日本学術会議公開シンポジウム、2009年12月13日、日本学術会議講堂
- ⑯井上聡・馬場基、文字字形総合データベース作成の試み、人間文化研究情報処理共有化研究会、2009年7月16日、人間文化研究機構

〔図書〕(計 23 件)

- ①遠藤珠紀、竹林舎、「中世前期下級官人の年中行事」、遠藤基郎編『生活と文化の歴史学 2 年中行事・神事・仏事』、2013、pp.311-321
- ②加藤友康、世界出版社(ハノイ市)、平安貴族の国際意識、ファン・ハイ・リン編『日本研究論文集日本とアジア』、2012、pp.51-64 (ベトナム語訳 pp.59-78)
- ③保立道久、岩波書店、歴史のなかの大地動乱 奈良・平安の地震と天皇、2012、241
- ④久留島典子、勉誠出版、中世後期の結婚と

- 家一武家の家を中心にー、仁平道明編『東アジアの結婚と女性』、2012、pp.80-90
- ⑤木村直樹、吉川弘文館、<通訳>たちの幕末維新、2012、203
- ⑥松澤裕作、山川出版社、重野安繹と久米邦武、2012、85
- ⑦山田太造、勉誠出版、日本史史料における翻刻データの作成支援と共有手法、石塚晴通編『漢字字体史研究』、2012、pp.379-395
- ⑧加藤友康、東京堂出版、平安時代の古記録と日記文学ー記主の筆録意識と筆録された情報ー、石川日出志・日向一雅・吉村武彦編『交響する古代ー東アジアの中の日本ー』、2011、pp.343-371
- ⑨久留島典子、山川出版社、一揆の世界と法、2011、111
- ⑩山家浩樹、思文閣出版、『延文四年記』記主考、東寺文書研究会編『東寺文書と中世の諸相』、2011、pp.601-629
- ⑪遠藤珠紀、吉川弘文館、中世朝廷の官司制度、2011、381
- ⑫保立道久、洋泉社、かぐや姫と王権神話、2010、254
- ⑬馬場基、吉川弘文館、佐藤信編『史跡で読む日本の歴史 4 奈良の都と地方社会』、2010、pp.10-94
- ⑭吉村武彦、角川学芸出版、平城京誕生、2010、pp.11-58・pp.172-186
- ⑮及川亘、東京大学出版会、町の経済ー算用帳に見る京都の人的結合ー、高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市』、2009、pp.183-214
- ⑯木村直樹、吉川弘文館、幕藩制国家と東アジア世界、2009、313

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 友康 (KATO TOMOYASU)
 明治大学・大学院・教授
 研究者番号：00114439

(2) 研究分担者

保立 道久 (HOTATE MICHIHISA)
 東京大学・史料編纂所・教授
 研究者番号：70092327

久留島 典子 (KURUSHIMA NORIKO)
 東京大学・史料編纂所・教授
 研究者番号：70143534

山家 浩樹 (YANBE KOKI)
 東京大学・史料編纂所・教授
 研究者番号：60191467

(H21→H22：連携研究者)

明石 美奈 (AKAISHI MINA)
 法政大学・情報科学部・情報科学研究科系
 研究科・教授
 研究者番号：60273166

(H21→H22：連携研究者)

(3) 連携研究者

- 石川 徹也 (ISHIKAWA TETSUYA)
 東京大学・史料編纂所・特任教授
 研究者番号：20041808
- 田中 譲 (TANAKA YUZURU)
 北海道大学・大学院情報科学研究科・教授
 研究者番号：60002309
- 月本 雅幸 (TSUKIMOTO MASAYUKI)
 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
 研究者番号：60143137
- 岩井 茂樹 (IWAI SHIGEKI)
 京都大学・人文科学研究所・教授
 研究者番号：40167276
- 末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)
 東京大学・史料編纂所・准教授
 研究者番号：70251478
- 松澤 祐作 (MATSUZAWA YUSAKU)
 専修大学・経済学部・准教授
 研究者番号：20361652
- 井上 聡 (INOUE SATOSHI)
 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号：20302656
- 及川 亘 (OIKAWA WATARU)
 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号：70282530
- 木村 直樹 (KIMURA NAOKI)
 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号：40323662
- 遠藤 珠紀 (ENDO TAMAKI)
 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号：10431800
- 山田 太造 (YAMADA TAIZO)
 東京大学・史料編纂所・助教
 研究者番号：70413937
- 馬場 基 (BABA HAJIME)
 奈良文化財研究所・主任研究員
 研究者番号：70332195
- 吉村武彦 (YOSHIMURA TAKEHIKO)
 明治大学・文学部・教授
 研究者番号：50011367
 (H22～H24)
- 神野志隆光 (KONOSHI TAKAMITSU)
 明治大学・大学院・教授
 研究者番号：60018900
 (H22～H24)